

児童支援課

## 風通しの良い職場環境を目指して

平成27年4月の虐待事案から、4年9ヶ月が経過しました。その間、全職員が悩み、苦しみ、その中から何かを変えなければという強い信念の元、様々な取り組みを行って参りました。その結果、多くの変化や気づきが生まれました。まず変化したこと、①潤いのある生活空間とは何かということ意識し、各職員が小さな工夫を始めたこと。②学習意識が高まり、障害特性の学習のみならず、福祉全般について組織だけでなく、個人が学習を始めたこと。③他の職員の支援に興味を持つことにより、様々な気づきが増えたこと。④「ありがとう」の感謝の言葉が増えたこと。⑤支援内容のハードルが上がり、現状の支援に満足しなくなったこと。⑥一律の支援から個別の支援を考えはじめ、更に実行に移すようになったこと。⑦施設箇所が激減したこと等々。

これらのことは一朝一夕ではなく、少しずつ、少しずつ職員の方々が歩みを進めた結果だと思っています。



私見ではありますが、大切なことは、気づくこと(意識すること)、言葉に出すこと、行動すること、記録すること(正確に)、振り返ること、過信しないこと、ひとりで抱え込まないこと、小さなことのように思われることでも職員間で共有することだと思います。

絶対に自分の施設は大丈夫な  
どという根拠のない自信は捨て、

『もっとよい支援は無いかな?』の視点を持ち、考え続けることが必要だと思います。取り組みは始まったばかりで、職員の頑張り以外は、誇れるものは何もありませんが、本当の意味での再生を目指し、思考を止めることなく、児童、職員、全ての方々との関わりを大切にしていきたいと思っています。



桃山学園 児童支援課 技術次長 則枝勝也